

2023年佐世保市会議員選挙立候補予定者アンケート

石木ダムに関するアンケート実行委員会

Q1. 1972年の予備調査から今日までの経過と現状について？

立石たかし	あまり知らない
浦川 栄一	知っている
小田 徳顕	よく知っている
下村 雅樹	あまり知らない
山寄 寿郎	知っている
大塚 克史	知っている
佐藤 文子	よく知っている
新川 英之	知っている
無記名(3人)	知っている
無記名(6人)	よく知っている
無記名(1人)	あまり知らない
無記名(1人)	無記入

2023年佐世保市会議員選挙立候補予定者アンケート

石木ダムに関するアンケート実行委員会

Q2. 佐世保市にとって石木ダム建設の目的は、慢性的な水不足を解消するためとされています。（あなた自身は）ここ10年間で水不足を実感されていますか。

立石たかし	実感していない	
浦川 栄一	実感していない	
小田 徳顕	実感していない	
下村 雅樹	実感していない	
山寄 寿郎	実感している	水不足は南部地区のみの問題である。供給過剰となった広田・重尾地区などのムリな住宅地整備が大きい。下の原ダムは常に水不足の危機にある。「石木ダム」ではなく、「カタールワールドカップ」のように水精製技術（全て日本の技術）を用いた解決を望む。カタールにはダムが1つもない。
大塚 克史	実感している	平成6年頃の断水制限、平成17年度と19年度の減圧による給水制限
佐藤 文子	実感している	水源不足は常に潜在的に隣り合わせのものであり、給水制限等に至らない限り直接実感するようなものではない。しかし、今年は給水制限を見据えた渴水対策を実施する前の節水広報が行なわれている。これらの事をふまえ、水源不足の課題として理解している所であります。
新川 英之	実感している	南部地域は雨が降らないと給水制限のアナウンスが地域放送などしているので実感しています。
無記名（6人）	実感している	無記名A：水源能力が乏しいため小雨傾向が続くと節水の呼びかけになり企業誘致に影響が出ている。 無記名B：佐世保市の将来のためには是非必要なダムである。 無記名C：佐世保市内への企業誘致やIR誘致の推進には水不足の解消が必要不可欠です。
無記名（4人）	実感していない	
無記名（1人）	わからない	

2023年佐世保市会議員選挙立候補予定者アンケート

石木ダムに関するアンケート実行委員会

Q3. 2019年度に佐世保市は、石木ダム建設事業の再評価を実施しましたが、そこで示された水需要予測は、その後の実績値と大きく乖離しています。この水需要予測について

立石たかし	合理的でない	*この設問は記述欄を設けていませんが、お2人からコメントを頂いています。
浦川 栄一	合理的でない	
小田 徳顕	合理的でない	
下村 雅樹	合理的でない	
山寄 寿郎	合理的である 合理的でない *どちらにも○	今後の住宅地の増加による。正確な算出は難しいが水不足の恐れはある。(可能性)
大塚 克史	わからない	
佐藤 文子	合理的である	予想と実績が異なるのは当然であり、司法判断にも示されています。
新川 英之	合理的である	
無記名 (2人)	合理的でない	
無記名 (7人)	合理的である	
無記名 (2人)	わからない	

2023年佐世保市会議員選挙立候補予定者アンケート

石木ダムに関するアンケート実行委員会

Q4. 佐世保市の北部を流れている佐々川は、県内一大きな2級河川です。九電相浦発電所の廃止と共にその水利権が返上され、灌漑用の水利権もほとんどつかわれていません。これらの遊休水利権を水道用に転用すれば、莫大なコストも要せず水源が確保されます。このことをご存じですか。

立石たかし	知っている	合理的と思われます。平成6年の渇水時に佐々川よりダンプに積んだタンクで水を運んでいました。パイプラインの敷設をすればと考えた覚えがあります。
浦川 栄一	知っている	転用可能な資源は転用し、水源として利用して良いと考えます。
小田 徳顕	知っている	必要な対策だと思います。市の財政状況や水道代の点からも転用することが合理的だと思います。
下村 雅樹	知らなかった	ネットで調べたら県議会の一般質問で取り上げられている。佐々川の水が活用できるのかどうか今後も検討していくべきだと思う。
山寄 寿郎	知っている	しかし、南部にまで水を引くのはコストがかかる。小森川支流や河川水流をポンプで下の原ダムにくむことを行えば、水不足は解消できる。また、カタールのように海水から水を精製する技術を用いれば「石木ダム」は必要ないのではないか。詰まるところ、政治家と行政の努力不足に他ならない。ダムありきの話はありません。案①小森川支流の河川水のポンプ利用/案②海水から水をとる精製/案③石木ダムはマストではない。
大塚 克史	知らなかった	恒常的に水道用水として佐々川の遊休水利権を転用するのは難しいと思います。
佐藤 文子	無記入	佐々川に転用可能な水利権は存在しないという事実（司法判断）は知っています。
新川 英之	無記入	佐々川に転用可能な水利権は存在しないという事実は聞いています。
無記名（7人）	知っている	無記名A：県の判断による。 無記名C：現在では佐々川からの取水は困難と聞いています。佐世保市・佐々町より確認済み。 無記名D：評価する。
無記名（2人）	知らなかった	無記名E：関連するすべての機関等々との調整・理解が得られるならば有効な手段の一つと考える。
無記名（2人）	無記入	

2023年佐世保市会議員選挙立候補予定者アンケート

石木ダムに関するアンケート実行委員会

Q5. 石木ダム建設を推進する佐世保市は総事業費として353億円を見込んでいましたが、2019年度の再評価で445億円に増額しました。しかし、ダム本体工事費は2007年度の予算のままです。人件費や資材の高騰で完成までには相当の増額が予測され、それによる水道事業会計への圧迫は必至です。計画の見直しについてどう思いますか？

立石たかし	見直し必要	
浦川 栄一	検討の余地あり	
小田 徳顕	見直し必要	
下村 雅樹	見直し必要	
山寄 寿郎	検討の余地あり 見直し必要 *どちらにも○	
大塚 克史	検討の余地あり	
佐藤 文子	全く必要ない	石木ダム建設が直ちに水道事業会計を圧迫しないことは司法判断で示されています。
新川 英之	全く必要ない	
無記名 (1人)	見直し必要	
無記名 (4人)	検討の余地あり	
無記名 (5人)	全く必要ない	無記名C：早期完成を期待している
無記名 (1人)	わからない	

*この設問は記述欄を設けていませんが、お2人からコメントを頂いています

2023年佐世保市会議員選挙立候補予定者アンケート

石木ダムに関するアンケート実行委員会

Q6. 長崎県と川棚町が1972年に地元と約束した覚書（石木ダム建設の必要が生じたときは、県は3郷の住民と協議し、書面による同意を得た上でないと建設に着手しない。川棚町はこの覚書が守られない時は全力で反対し県の作業を阻止する）が、守られずにダム建設を進めてきたことについてご存じですか。またどうお考えですか。

立石たかし	知っている	地権者の同意が事業前提と考えます。誠心誠意、議論し合意をはかりながら進めるべきと思う。
浦川 栄一	知っている	約束は約束として、県は対応すべきと考えます。
小田 徳顕	知っている	覚書を反故にしたのは長崎県であり、県には石木・川原の住民の方々と話し合いをする責任があると思います。
下村 雅樹	知らなかった	覚書が守られずにダム建設を進めてきたことが本当かどうかはわからないので何とも言えない。
山寄 寿郎	知っている	覚書がどこまで法的効力を有するか定かでない。ただ、私のスタンスはダムありきではない。（本当に必要なら作る）
大塚 克史	知っている	
佐藤 文子	知っている	県の覚書であるため詳細には知りませんが、現在も川棚町は建設に反対はされておられませんかし、推進の意志（思）を示されています。
新川 英之	知っている	
無記名（7人）	知っている	無記名A：協議を続けていると理解している。 無記名D：守るべきだ 無記名E：現在も反対している方々がいることは知るところだし、すでに退去された方々もあり、当事者でないものとしては難しい問題と思っている。
無記名（2人）	知らなかった	
無記名（2人）	無記入	

2023年佐世保市会議員選挙立候補予定者アンケート

石木ダムに関するアンケート実行委員会

Q7. 水没予定地では既に全ての土地や家屋が強制収用されていますが、地元の方々は以前と変わりなくそこで米や野菜を作って暮らすことを願っています。ダム建設を強行し、13家族の家や暮らしそのものを破壊する行政代執行について、ダムのためなら仕方無いと思われませんか？

立石たかし	思わない
浦川 栄一	思わない
小田 徳顕	思わない
下村 雅樹	思わない
山寄 寿郎	分からない
大塚 克史	思う
佐藤 文子	無記入
新川 英之	無記入
無記名 (2人)	思わない
無記名 (5人)	思う
無記名 (2人)	分からない
無記名 (2人)	無記入

*この設問は記述欄を設けていませんが、お1人からコメントを頂いています。

家や暮らしは適正な補償によって守られていくものと認識しています。行政代執行については判断も示されていないので回答をいたしかねます。

2023年佐世保市会議員選挙立候補予定者アンケート

石木ダムに関するアンケート実行委員会

石木ダム建設事業について考えておられることを自由にお書きください。

立石たかし	地権者全員の同意が得られていないダム建設事業はするべきではない。行政はあくまでも地権者全員の同意が必要。過ちを繰り返してはいけない。有識者を交えた公開の場での話し合い、広く県民の意見を聞く必要があると考えます。
浦川 栄一	事業については、代替案を含めて、水資源の観点から再検討すべきと考えます。
小田 徳顕	治水、利水両面の根拠が乏しく、今後の人口減少や、節水機器の普及を考えると石木ダム建設は必要ないと思います。
下村 雅樹	建設に反対されている住民の方々は工事を中断して話し合いをしてほしいという思いに対して知事は工事を進めながら話し合いをする。話し合う目的が違うことが今の問題だと思っている。基本は住民や佐世保市民の声を聞くこと。これがないと前に進まない。
山寄 寿郎	世界的にSDGs が叫ばれている。お互いの共存を模索したい。ダムが解決方法というわけではない。新興国のカタールにはダムが1つも無いのに水不足はおきていない。しかし、佐世保はダムがないと水不足になると言っている。佐世保の現状は、世界基準ではなく、すこし恥ずかしい。
大塚 克史	本市の水不足の抜本的改善策としてこれまでにいろんな方策について検討を重ねてこられました。石木ダム以外に有効な方策はないと認識しています。また、国が行ったダム検証においても代替案の検討がなされ、国が設置した第三者機関有識者会議による審議を経た結果、石木ダムが有効であると示されていること。またダム建設により移転を強いられる皆様の心情に報いるためにも建設の推進を望みます。
佐藤 文子	
新川 英之	
無記名 (4人)	無記名A：すでに54世帯の方々は理解を示され、移転をし、新しい生活をされている。ひきつづきお願いを13世帯の方々にしている現状と理解しています。 無記名C：この問題をこれ以上後世に先送りすることはできません。石木ダムの早期完成を期待しています。 無記名D：他に手段がないか、検討するべきだ。 無記名E：市としては、もっと多くの市民に説明を行い皆が必要か否かを考える材料を示すべきと思う。多くの市民の声を聞く事が大切。